

平成30年度 第1回富田林市金剛地区再生指針推進協議会 会議録

日 時：平成30年10月4日（木） 午後2時～4時

場 所：青少年スポーツホール2階 会議室

出席者：○協議会委員 12名

友田委員、中井委員、溝口委員、吉村委員、増田委員、廣崎委員、
鬼頭委員、山田委員、木全委員、佐々木委員、皆見委員

中岡委員代理：生駒氏

○事務局 4名

まちづくり政策部まちづくり推進課

仲野次長代理兼課長、尾崎課長代理兼政策係長、坂口主幹兼地域整備係長、竹内

○コンサルタント 1名

特定非営利活動法人きんきうえぶ 寺田

会議概要（案件）

- 金剛地区再生指針推進の進捗について（平成29年度）
- 金剛地区再生指針推進の取り組みについて（平成30年度上半期）
- 中・長期的な取り組みについて（公園の利活用促進など）
- その他

会議記録

1. 開会

（事務局：仲野）

2. 委員紹介、会長及び副会長の選出

（事務局：仲野）

- ・委員紹介。

本審議会規則第4条第1項では、「委員の互選により定める」となっておりますが、会長には、

本協議会の会長を当初からお願いしております、大阪府立大学 名誉教授の増田委員に、副会長には、市民委員の中井委員にこれまでどおり引き続きお願いしたいと思いますが、皆様いかがでしょうか。

(委員一同)

異議なし。

(事務局：仲野)

ありがとうございます。それでは、会長は増田委員、副会長は中井委員ということでよろしくお願いたします。早速ですが、増田会長、中井副会長のお二人には、恐れ入りますが席の移動をお願いいたします。

それでは、正副会長を代表しまして増田会長に就任のご挨拶をお願いしたいと思います。

(増田会長)

皆さん、こんにちは。ただいま皆さん方のご推挙によりまして、前期に引き続いて、会長を仰せつかりました増田でございます。

早く、極端なことを言うと、協議会はどんどんどんどん黒子に変わってきて、会議体の方がどんどん表に出ていくという形になっていくんやろうと思いますけども、そのあたりの繋ぎ子をするということで、よろしくお願したいと思います。

基本的には、かしこまった会議みたいになっていきますけども、自由な意見交換をするというのが本論でございますので、皆さん方の活発な意見交換の見出してみたいなことが出来ればと思いますので、よろしくお願したいと思います。

また、副会長の中井さんには、お手数おかけしますが、よろしくお願したいと思います。

(事務局：仲野)

ありがとうございました。それでは、これより議事の方へ進めさせていただきます。この後の議事進行は、設置要綱第5条第1項により、会長が行うこととなっておりますので、増田会長、議事進行をよろしくお願いたします。

3. 議事

(増田会長)

はい、それでは、進めさせていただきますけども、お手元の次第でございますように、(1)からその他を含めて4題。議事としては3題でございます。順次、意見交換進めて参りたいと思いますので、よろしくお願したいと思います。

それでは、議事(1)金剛地区再生指針推進の進捗について(平成29年度)。少しあて職の方々、メンバーが入れ替わっているということで、少し過去の経緯というのをご説明いただくということになっております。よろしくお願したいと思います。

(1) 金剛地区再生指針推進の進捗について（平成29年度）

（事務局：竹内）

・資料2、3説明。

（増田会長）

はい、いかがでしょうか。再生指針の少し概要と、29年度こんな内容やりましたという。主には、市民活動と考えるよりも、むしろ市の行政施策として、どんなことが展開しているかということが説明されていたと思いますけども。何かご質問ございますか、いかがでしょう。

まだまだ、情報データベースのヒット数っていうのは、5か月で70回というのは、ほとんどヒットされていないという状態ですし、もっとももっとこう皆さんに知ってもらったり、参画機会というのを作っていかなあかんのやろうと思いますけど。何か他にございますか、いかがでしょう。

あと、部会でやっていただいています活動については、後ほどご説明いただくということになるかと思えますけども。

これもうちちょっと、例えば福祉委員会のサロンの開催と書いてあるのは、これどんな場所で。小学校の多目的室等を利用して書いてますね。頻度どれくらいされてて、どれくらいの人数参加されているんですかね。

（事務局：坂口）

はい、まちづくり推進課の坂口と申します。これは、金剛地区には高辺台、久野喜台、寺池台、伏山台という4つの校区があって、それぞれに校区ごとに福祉委員会さんがありまして、特色のあるサロン。場所としましては、多くは多目的教室なんですけども、地区の集会所なんかを使われている例もあります。で、久野喜台の方は、月1回お邪魔しているんですけど、だいたい100人くらい来られています。寺池台の方も、何度か顔出させてもらったんですけども、30人から50人は来られているかなっていう印象ですね。高辺台の方もだいたいそのくらいの数字なんですけども、後で報告あると思うんですけども、このサロンがちょっと進化して、DVDカフェとかお茶飲むカフェとかに発展しているっていう例もあります。伏山は、すいません月1回されていると思うんですけども、色んな場所転々としてされているということで、喫茶店形式でされているのもあれば、子育て支援、サロンとしてやられている例もあるということで、ちょっと何人くらい来ているかは把握していないですけど、そのように活動されておられます。

（増田会長）

はい、ありがとうございます。これLED化は赤色ですか、青色のLEDは防犯にかなり効果あるという記事が一時期ありましたけど。

（事務局：坂口）

白です。あと、防犯灯もLED化を準備させていただいているんですが、それも全部白が多いですね。

(増田会長)

一時期、青色LEDは防犯上ゴっつい効果が高いっていう記事が何回か出たことあるんですけどね。はい、他何かご質問ございますか。いかがですか。

(友田委員)

1点だけ質問いいですか。ここの多様な住まいの供給のところ、金剛第三住宅を見つめる会の活動ってというのが書かれているんですけど、ちょっとこれ差支えない範囲で。今どんな状況になって、どういう風に進めておられるのかとか。それとか、ここって割と大事だと思って、駅前をね、今後色々検討していくにあたって、南海さんとの話であったり、狭山市さんとの話であったりね、そういう部分を本当に一体的に考えることで、今後動きが大きいものになっていくと。それは次回でわかるでしょうけども。その辺の今の状況だけでも、差支えない範囲で教えていただいて共有できたらありがたいなと思うんですけども。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。いかがですか。

(事務局：仲野)

実際まだ、活動自体は2、3年やってるんですけども、まだ具体的に何も動いていないというのが現状です。ようやく、住民さんの方も色々考えているって言ったらかしいですけど、具体的にあれやっという状況になりまして、去年から専門のアドバイザー、再開発プランナーさんと委託契約を結んでいただいて、ちょっと専門的な色んな区分所有法とか、マンション建替法とか、実際にやっという対しての色んな法的な制限ですよね。そういう勉強会がようやく始まったと。

で、この前なかなか参加していただけない。住民さんになかなか来てもらえないというのが、ぶっちゃんけの状況です。いつも会合を開いても、だいたい15、6人前後。毎回同じ顔ぶれが集まるような感じになってきて、どうすれば人を増やしていけるやろうってところもなかなか困っている状況です。

で、この前一回ね、建て替えてという言葉を出してみようかと、あんまりそういうこと出すとけっこう空中分解することが多いみたいなので、慎重にやらないと駄目ですよって、再開発プランナーの方から教えてもらっていたんでね。この前一回、ちょっとあまりにも人が集まらないんで、建て替えてという言葉を出してみようってことで、超概算なんですけども、あその土地を使って、どんな建替計画が出来るんやろうってのを、一回試算していただきました。実際やると、講習会をやったんですけども、昼から2回やらさせてもらったんですけども、今までにないくらいの方が来られてちょっとびっくりしたっていう状況ですね。30人から50人くらい来はったのかな。今までこういう勉強会しても20人くらいしか集まらなかったのに、一気に倍来たんで、やっぱり建て替えてという言葉で皆さん反応されるんやなあっていうのは、事務局側としては、すごくびっくりしたのは事実ですね。ただ実際、色んな金額の話もしたんで、ちょっと怖いなっ

で思っているところもあるんですけどね。

で、それを今回やってみたんで、引き続きもうちょっと具体的な検討を進めていこうかなっていう状況なので、やはり区分所有法がかなり、マンション建替法にしても、5分の4の同意の。あそこ11棟あるんで、棟別でいうと3分の2の同意がないと、動かない。法的には動けないっていうところがあるんで、その合意形成に向けて、これから何をやっていこうかっていうのも模索しているところです。まだ取っ掛かりの状況です。

(増田会長)

よろしいですか。ありがとうございます。

(友田委員)

はい、ありがとうございます。

(中井副会長)

第三住宅は、駅から歩いて信号のある道路で二つに分かれていて、駅側に近いところと市場に近いところですね、この二つに分かれていまして、両方の地区で意識がちょっと違うっていう風に聞いているんですけどね、そういうところもなかなか分かり合えないのかなあと外から見て思っているんですけど、その辺はどうですか。

(事務局：仲野)

あんまり直接は関係ないみたいですね。結構それで言うと高層階の方があれかなと思ったんですけど、先ほど言った説明会とか開くと、結構1階、2階の方がようけ来られていて、高層階の方があんまり参加されていないっていう現状があるんです。

で、やはりぶっちゃけて言うと、皆さん高齢の方が多いですよ。アンケート取るんですけど、皆さん70歳、80歳代っていうのがほぼ大半で、やっぱりこれから私たちの時代ではできへんよねって話されるんで、自分らの子ども、場合によってはお孫さんにね、何かの形で残していけるようなものの足がかりをしたいっていう方が多いですね。

あと、賃貸化になっているところはかなり多いみたいで、区分所有者さんそのものがお住まいになっておられないっていう現状もあるみたいです。320戸あるんですけど、100戸くらいは空き家と賃貸になってしまっているっていう現状があるみたいです。やから実際に賃貸化されている方は、資産運用したいっていう意向が多いんで、先ほど言った説明会やった時は、けっこう他市とか場合に寄ったら他府県に住んでいる方もいらっしゃるみたいなんですけど、わざわざ説明会に来られたんでね。その辺はちょっと意識が高いのかなというところですね。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。よろしいでしょうかね。たぶんあのメインの道路に面して、分譲住宅があって、昔の建て方っていうのは、その道路に対しては生垣があって、なかなか建物そのものが道に面していないんですよ。たぶん全国的にそんな建て方したんですけど。本当はまちの賑わ

いにとっては、歩道へダイレクトにどんな顔の出し方をするっていうのが、まちにとっては大事なんですけど、昔はやっぱり閑静な郊外住宅っていうイメージで開発されましたから、全部出入口が集約されたところにあって、そこが道路からは一旦切り取られたっていう。そのあたりがまちの賑わいとかにとっては一つの限界性ですかね。時代背景ですけども、そんなんもあろうかと。

他いかがですかね。はい、吉村委員どうぞ。

(吉村委員)

若者向け企画住宅ですか。供給っていうことで書いてあって、健康寿命サポートっていうことで。医療福祉拠点化っていうことで書いてあるんですが、僕高辺台で一戸建ての方に住んでおるんで、こちらの方よくわからんですけど、ここらへん供給やったらどれくらいされているとか、どういう状況になっているのか、もうちょっと教えていただけたら、ありがたいなあと思うんですが。

(増田会長)

はい、いかがでしょうか。

(事務局：坂口)

この健康寿命サポート住宅の供給戸数とMUJI×URの戸数を。

(吉村委員)

どのくらい進んでいるのかなっていうことです。

(事務局：坂口)

戸数でしたらURさんですかね。

(鬼頭委員)

URの鬼頭でございます。金剛地区の中ではまだまだなんですけど、まず健康寿命サポート住宅につきましては、平成29年1月からやってきておまして、昨年の末までで累計で今33戸の供給の戸数です。で、MUJI×URにつきましては、更にちょっと数が少なくて、現状で今15戸という状況です。ちなみに下に書いていますが、各種割引はU35割が28年の8月から、近居割が28年1月から、それぞれ実施させていただいております。

(吉村委員)

若い人知っているんですか。こういうのあるって。

(鬼頭委員)

そうですね。特にMUJI×URはですね、ここの金剛だけでなく、全国的に広く横展開させていただいておりますので、だいぶとですね、無印良品さんの名前の力を借りながらですけど、浸透はしてきているのかなという風に考えてございます。

(増田会長)

この近居割は、市の施策とは別途、URの施策として展開されているということですね。

(鬼頭委員)

そうですね。

(増田会長)

これはどちらが高額出るんですか。

(事務局：坂口)

まず賃貸か。市の方は全て持家になりますので、その辺でちょっと棲み分けが。

(増田会長)

棲み分けをされているわけですね。やっぱり。

(事務局：坂口)

URさんはあくまでUR団地。ただ親元が一戸建てでもいいんですよ、違いましたか。

(鬼頭委員)

ちょっとですね、色々ありまして、近居割というのは団地ですね。ちなみに近居割というのは、通常より5%の減額という率を設定してやっております。

(増田会長)

その辺がね、利用者側から言うとワンストップ型にしてもらう方がありがたいです。市は市で施策持ってて、URはURで施策持っているけど、使う側からしたらどっち側へ行ったらいいんやみたいな話になるんでね。極端な事を言ったら、近居割なり、割引みたいなやつについては、本当は一体化して、財布は別でもいいんですけどね、受付窓口みたいなやつは要するに一体化してもらう方がありがたいと思うんですけどね。利用者側から見るとね。

他いかがでしょうかね。よろしいですか。

(吉村委員)

さっき高齢者ばかりの話あったんやけども、若い人も最近入って来てないんですかね。僕出来るだけね、こっちには歩いて来るようにしているんです。やっぱり高辺台におったらわかれへんから。やっぱり、若い人ちょいちょい見るんです。高齢者ばかりっていうのもありますよ、関スパとか行ったらね。せやけども、ちょいちょい見るんでね若い人も。

(増田会長)

それはたぶん戸建とかね、やっぱり分譲のところは高齢化が進んでいますけど、URの賃貸、比較の入替えもあって、年齢層ちょっと若いんじゃないですか。どうでしょう。

(鬼頭委員)

そうですね。金剛団地がどうこうっていうところまでなかなか取れてないんですけど、最近にはやっぱりそのUR賃貸住宅もですね、全体的にはやっぱりかなり高齢化が進んでいまして、5年ごとに無作為でお住まいの方の状況っていうのを確認しているんですけど、直近で言うと平成27年にでしたかね、やっているんですけど、ご回答いただいた約5万人弱だったかな。その平均年齢が50歳超えてきているという状況で、かなり高齢化が進んでいるということもあって、高齢の方が極力お住まいしやすいようにとかあるんですけど、新しくやっぱり若い人も入っていただきたいというところで、どちらかと言うと、その入居の割引策という形でね、促進策としてそういった若者向けものが最近多くなってきているっていうことで、我々も極力色々な世代の方にいかに入っていただくかっていうところで苦労しているところでございます。

(増田会長)

たぶんこの多様な住まいの供給・流通の促進というのに関してはね、住宅の種類によってどんな展開論があるかというのが違うと思うんやね。UR賃貸とURの分譲と、それと要するに戸建てと民間マンションもありましたかね。それによってちょっと居住者の年齢層も違うでしょうし、ちょっとその辺のあたり、どの住宅地にどんな施策展開をしているかみたいやつがわかるとわかりやすいですけどね。はい、ありがとうございます。他いかがでしょう。

(事務局：坂口)

ちょっと先生すいません。先ほど私、伏山のサロンのことがあまり上手く説明できなかったんですけど、ちょっと忘れていまして、軽トラマルシェ。これ伏山の福祉委員会さんが毎月1回青空カフェということでここでやっていただいております。このような青空カフェをですね、伏山台校区のどなたかのお庭を借りたガーデンカフェとか、施設を借りた施設のお庭での青空カフェとか、結構地域に出向いたカフェを活発に伏山さんされています。

(増田会長)

はい、そしたらちょっと前に進めさせていただいていいですか。だんだんと身近なところへ繋がっていきますので、次は30年度の上半期ですね。どんな活動を会議でされてきたかというのをよろしくお願いします。

(2) 金剛地区再生指針推進の取り組みについて（平成30年度上半期）

(コンサルタント：寺田)

・資料4説明。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。4つ部会が設置されて動いているんですけど、それぞれたぶんメンバーいらっしゃいますので、居場所づくりについて廣崎さん、あるいは佐々木さんからちょっとコメントもらえますかね。こんな面白さがあるとか、こんな課題があるとか、いかがでしょう。

(廣崎委員)

突然振られてびっくりしていますが、Kotonaの方でもちより晩ご飯会をやっているのです、そのご紹介をさせていただこうかなと思うんですが、いつからでしたっけあれ。

(事務局：坂口)

4月から。

(廣崎委員)

4月から、4、5、6、7。7が台風で、8、9の5回開催したんですけども、来られるメンバーが固定メンバーになるのかなって。来られる人ばかりが集まる場所になるのかなって思っていたんですが、意外や意外に人がちょこちょこ入れ替わり。で、驚きだったのが、金剛コミュニティって、この金剛エリアに無料で配られる情報誌なんですけれども、そちらの方見て来ましてっていう方がいらっしゃって、なんかそういうのって意外に見られているっていうか、来られた方なんかはまだ地域とつながりが出来てなくて、つながりを求めて来ているっていう風な感じだったので、やっぱり人って地域とのつながりを求めているんだなっていうのが印象で。私たちが心がけているのが、また来たい時に来てねみたいな。必ず来てねっていうより、あなたが来たい時に来てね、私たちはいつでも待っているよっていう風なスタンスを大事にしています。

だいたい10名前後の方が1品持ち寄って来られるんですが、これうちのスタッフですら持ち寄りだからなんか作って行かないといけないんですよ。せんど言ってるんです。買ったやつでいいよって言ってるんですけど、なんとなくそこが入らなくて、いやあ私料理苦手やしとか言って。私なんかめっちゃ関スパの唐揚げとか持って行っているよとか、寿司持って行っているよとかいう話を3回くらいしているんですけど、やっとたぶん入ったと思んですけど、うちのスタッフなんかも来てくれたらなあと思っていますし。見ていただいたら、作った感じがなくて。これは亜土夢ミートで買った手羽先か。とか軽トラマルシェで売ってあったとうもろこしを茹でましたとか、きゅうり切っただけですとか。なんかそんなものを持ち寄ってやっています。

そうですね。来た人のしゃべれる場というのをしているのです、皆さん自己紹介したりして、おしゃべりをしやすい状況にしているんです。なので、結構盛り上がって時間がだんだん伸びてきたなあ。

(増田会長)

なるほど。それはいいですね。やっぱり女性ばかりなんですか。

(廣崎委員)

いや男性も。ここにいてる。

(増田会長)

年齢層はどれくらいですか。結構広いんですか。

(廣崎委員)

年齢層ね。実は中学生も来てくれたんです。親子ですけど。すごく幅広く、高齢者の方もいらっしゃいますし。

(吉村委員)

どんな話になります。

(廣崎委員)

どんな話。自己紹介で「私こんなことしたいんです」とかいう話で結構盛り上がり。この間は、趣味の話、私の子どもの話もしましたし、ワンピースが好きやねんけど、全然マニアックすぎて私付いて行かれへんねんって言って、その中学生の子と話し相手になれるかなみたいな世間話もしています。そんな難しい話は一切しておりません。

(吉村委員)

勝手にべらべらあっちこっちでしゃべるというわけ。

(廣崎委員)

基本的にあんな風にね、テーブルを横に、全部引っ付けると横がきゅうきゅうになるので、ちょっと間を開けて、ご飯も取りに行ったりもするので間を開けて通りやすくして、でもあんな風に、一番右端のように、こうぐるっと大きな円になっている感じで、自己紹介をしていくので、基本10人ぐらいなんで全員が、しゃべっている人の話を聞いているという形になります。途中で中断して、2つのグループに分かれたりもしますが、大体全員がその二方も、新しい人来ないかなくらいの自己紹介をしている形です。なので、ぜひぜひ皆さん。

(増田会長)

適度に入れ替わっているっていうのもいいですよ。誰かに固定化してしまうと面白くないでしょうけどね。

(廣崎委員)

あ、1番若いと、幼児も来ました。忘れてた。初回の時にたまたま通ったうちの拠点の広場の利用者で、こんなやってんねん、どうって。1歳児です。

(増田会長)

佐々木さんはどうですか。

(佐々木委員)

まあ、まちづくり会議等の参加の経緯と言いますと、ご紹介にもあったようにつながりカフェってところの、以前我々がけあばる金剛として、地域包括支援センターの一部として、市民の方の相談窓口として設置されたんですけど、その中でなんか言ったら、やっぱり居場所がないっていうのが根本的にあって、それで居場所ってどういう風に作っていったらいいんだろうねっていうところでつながりカフェをやったりした。その中で、やっぱり色んな課題って出てきたんです。

で、やはり我々組織の人間が、主体的にやっても、やっぱり後は続かない。そうやってくると、やっぱり住民さん主体でってなってくる。じゃあ住民主体ってどうやってしていったらいいんだろう。

で、まちづくりの会議の中で参加して、色んな意見を聞きながら、何かサポートできることはないんだろうかとか。で、実際に我々地域包括として何が出来るのかってなった時に、そういう場に参加していく。さっき廣崎さんもおっしゃったみたいに一体何やってるんやろうって、入りにくいなって思っていると、全然前に進まなくなる。実際に入ってみて、そして自分が体験してみて、それを我々の仕事としては、広報的に、こんなんやってん。すごい楽しかった。Kotona でやってるもちより晩ご飯会もこんなんやってんっていうことが、我々の中で発信出来たらなっていうところで、ちょっと色々参加はさせていただいているんです。で、何か軽トラマルシェなんかも参加させていただいて、すごく楽しい。で、美味しいものが食べれる。で、野菜とか新鮮なものが本当に買えるっていうところをこういったチラシで、つくっていただくことで、我々はそれを発信できているのかな。だからその発信っていうところがすごく難しさを感じているんです。

我々は高齢者の方が対象になるんですけども、高齢者は高齢者だけですよね。地域の中で高齢者がいて、そして高齢者には必ず娘さん息子さんがいて、またお孫さんがおられて。そういったところで、こんな楽しいことがあるんだよって、金剛の周りにはいっぱいあるんだよっていうことをお知らせさせていただける立場として、やっていきたいなっていうのがまず今思っていることです。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。情報発信ってたぶん堅苦しい話はなしに、今は若い子はSNSやとか、インスタ映えやとか、そんなんでもどんどん情報発信して行って、それで見ていく。ただ、居場所を求めている人ってそういうネット環境がない人ですよ。そのあたりをそうするのかなど。

それと私なんかは色んなところで、お手伝いさせてもらっていると、やっぱりデザインが好きな人がおってね、おしゃれなチラシを作ってくれるっていうのが結構大事で、結構金剛の中にもそういう方がいらっしやると思うんですけどね。コピーライターをしているとか、イラストレーターしているとか。そんな人が上手く引っかけると結構面白いと思うんですけどね。

その次っていいですかね。イベント企画は木全さんどうでしょう。何か実感というのは。

(木全委員)

そうですね。銀座商店街の前で今行っているんです。毎月第4土曜日になるんですけど。元々は

僕ら世代の仲間がいまして、農業を創造する会をやっているメンバーと仲が良くって、軽トラマルシェをやっているということを知っていて、でもちょっと行き詰まりを感じている部分もあるというので、僕らもそんなんやって。うちの商店街でも同じことが、高齢化して人が少なくなってきた、だったらうちの商店街の前でやらないかって話で、それでちょっとまちづくり会議さんの方にその話を持って行ったら、ああいいじゃないかってどんどん進んで行って、今に至るんですけど。

まあさせていただいて感じることは、やっぱり前の広場が本当に人通りがなかったところが、第4土曜日だけでもすごい人が溢れかえって、出店者の方がたくさん出店して下さるようになって、活気が出たっていうのは、本当に肌で感じることです。

来ておられる方々のお話し伺ったりすると、やはり今こういう天候の不順もあって、お野菜は高かったりすると、やっぱり同じくらいの値で、安心安全なお野菜を作っておられる方が、直で売りに来てもらえるということで、やはり人気で、皆さん野菜目的で来て下さるんで、それはすごいありがたいって言うてくださるのも聞いているんで、やって良かったなということになって。

最近では、写真でもあるように子どもさん向けのイベントも少し混ぜてやっているんで、やはり親子でいらっしゃる方も増えて、幅広い年齢層の方が来て下さるようになってきて、これも少し良い結果が出ているのかなと感じております。

まあ、色んなところを巻き込んでやっている、まちづくり会議さんもそうですし、先ほどおっしゃってたような色んな部会の方も参加していただいたりとか、近隣の自治会の方がお手伝いして下さったりして、少しずつ認知度が上がってきて、広がりが見えているのかなと感じております。

(増田会長)

一つは、まちづくりの会議の場っていうのは今みたいな話やと思うんですよね。何かやりたい人がポンとそこに持ち込んで、それやったらこんな形で皆でやりましょうかみたいな形で繋がって行って、非常にフォーマルに議論して、決議してみたいな話はなしに意気投合した人が一緒に、ここでやってみましょうかみたいな形になっていくっていうのは、一つの会議の在り方やと思うんですよね。今ネットワーク型やとか言われているのは。

はい、ありがとうございます。好例やと思いますね。ただ、上手く続いていくかどうかですよね。やっぱりコストパフォーマンスみたいなことを考えた時に、それもどンドンどンドン浸透していくとね、買い物難民やとか色んなこと言う時に、やっぱり自分の歩いて行けるところの店に行くみたいなことが大事で、それを要するに車でポッとどっか行ってしまってというような行為になっていくと、自らで自らの首を絞めているんですけどね。その辺のことがよくわかるようになってくると良いんですけどね。ちょっと歩いて、ぱっと行けるところへちゃんと行くみたいな行為が皆でどう認識していけるのかとか、その楽しさがわかってくると面白いんですけどね。

はい、ありがとうございます。もう後一つは、公園部会からです。吉村さん。

(吉村委員)

公園部会は、この前緒方さんという方が、色んなこと経験もされているということで、学習会やって公園の値打ちってずいぶんあるんやなってことを思ったところで、僕自身は何度も言いますが、この地域は公園が多くて緑が多くてね、これ良いので非常に、地元に残ったら良いなと思って

まして、この間ちょっと台風あったりねっていうことで、初めて認識したんですが、他の市に比べてここ台風の後かなり木倒れましたが、僕の経験では、21号で夕方頃倒れた木が朝行ったらなくなって、めちゃめちゃ早いなど、整備がね。ということでやっていたら、岩根さんという方がおられて、その方造園やってはるんやけども、富田林は最高やでっていうことで。各公園ごとにどこを整備するか決まっているみたいで、あつという間にその日のうちに道は全部通れるようになって、公園の道通れるようになって。他の市では無理やっていうことで、堺から来ている人が居てはって、びっくりしてはりましたよね。富田林の公園整備ってすごいええなあって最近ちょっと思ったということです。

それでもう一つ、公園を利用できへんかいうことで、僕が今思っているのは、どう利用されているか、僕がこうして欲しいという個人の思いはありますが、人によってちゃうやろなと思って、僕自身は保育園に知り合いがおったもんで、保育園に行ってどんな風に使ってますかってこと聞いたら、かなり自然公園的な部分が非常に子どもの発達とか、保育園の先生から見た立場でね、子どもの発達見るのに非常にええんやっていう。僕らは自然的な部分とか斜面なんかは使いもんになれへん不便なところかなと思ったら、あれがええんやっていう意見があったんで、公園に対しては色んな見方があんなってということがわかったんで、やっぱりこれからはそういうこともっと色んな、高齢者の人の立場やとやっぱり違うと思うんで、もっとこれ部会としてもというか、公園を生かすために色んな意見もっと聞かないかなと今思っているところで、そういうことをそれぞれの人に繋がりがあると思いますから、どういう風に使ったらいいと思いますか、どんなんがあったらいいと思いますかとか、そういうことをもっと聞いていくということが大事違うかなと今思っているところです。

ただあんまり進んでないんで、意識はあってもなかなか進んでないんで、もっとそこ考えないかなと今思っているところです。

(増田会長)

今私は大阪府下で4か所、市民の方々と公園をつくったり、つくり続けているんですけど、一つはどんな使い方をしますかっていうことも大事なんですけど、利用者というよりもむしろ、ゲストではなくてホストとしてどんな使い方したらええんやっていうことをしきりにやっているんです。

利用者の要求を聞くとかいう話ではなくて、自分は公園使って市民の方々とか子どもにどんなサービスしてみたいんやというような、ゲストからホストへっていうのを掲げて、10年ほどやっているんですけどね。そのホストをやりたいっていう人はいっぱいいるんですね。で、自分が使い手として話をすると、あそこはちょっと使い勝手が悪いとか、あそこはこんな風に利用制限があって使いにくいとか、結構ゲストとして聞いたら不平不満ばかり出てくるんです。そうではなくて、自分がそこにいて子ども集めてどんな学習会したいねんとか、どんなクラフト教室したいねんとか、そんなんやると結構前向きな声出てくるんですね、いっぱい。

だからほとんどが公園整備をするのも、この頃基本的に工事中というか開園前から36年開園とか、31年開園とかいう公園も、平成26年くらいからずっとやってまだ開園もされてないし、一部工事が進んでいるようなところで、ずっと公園づくりしているんですけど。そんな感じですね。面白いとどんどん部会が出来ます。

最初は要するに自然観察部会が出来たりとか、プレイパークの部会が出来て火遊びさせたりとか、

滑車すべりさせたりとか、木登りさせてくれるようなグループが出てきたりとか。最初はそういう自然観察部会って結構あるんです。ただ、子どもは自然観察よりも動くもんが1番興味あるんで、かといって鳥は動きが早いのと早朝なんで、やっぱり子どもが1番飛びつくのは昆虫ですよ。花とかはなかなか大人でないと飛びついて来えへんと。後は、せやけどクラフトを作るのはすごく喜びますし、泥んこ遊びやとか、火遊びやとか、この頃要するに若いご夫婦でそんなことさせてない子どもがようさんおるから、そんなことをさせるとどんどん面白い部会が出来てきて、いつもやっているところではそんなんですね。まあそんな参考にまたやっていただいたらいいと思います。ずっとゲストからホストへって話をずっとしてましてね。

(吉村委員)

保育園がね。保育園がわざわざ斜面を使って遊ばせるとか、道具で遊ばせるんやとか、あれがええなっていつてはったんで、そういうのどンドン聞いていった方が。

(増田会長)

そうですね。私が今、泉北の奥でやっているやつは小学校が年間30校来るんです、あそこに。それより多い場合、幼稚園、保育園、支援学級、それが来るんですね。遊びにというか。でも、保育園とか幼稚園は、幼児の時に自然体験とか、自然の喜びとか感動みたいなやつを売りにしている先生方とか園長とかがこの頃ごつつ出てきましたよ。

極端なことをいうと、認定保育園で、国の認可されている保育園で、園舎を持たない保育園があるんです。森の保育園って言うて。1年中、森で活動するだけやけど、ちゃんと保育園として認定されている。園地を持たない、園舎も持たない。まあそんなとこまで出てきてますのでね。それがものすごく良いと思うんですね。やっぱり子どもの小さな時に自然に対して感動してもらうような喜びを持ってほしいんですね。その辺はよく揉めるんですよ。だから、子育て層やこっちなんかは切り株が出てたり、ちょっとくらい危ないところがあっついって言うんですよ。でもホスト側の高齢者の団体ってありますが、躍起になって切り株があかんとかね、行政とね。せやけど、公園っていうのは、屋外に一步出たら安全っていうのはないんやと。ひよっとしたらスズメバチが飛んできて刺されるかもしれんし、転ぶかもしれんし。やからそんな自然との上手いお付き合いの仕方みたいなやつを知っとかないとみたいな話をよくするんですけどね。

それとか、面白い話がね。川遊びをずっとさせてた経験があるんですけど、子ども集めて。実際、1年間でたくさんお亡くなりになるのはね、子どもじゃないんです。30歳代の若い子育て層が亡くなってます。ということは何かというと、子どもの頃に川遊びをしてないんです。川で遊びを知らないから、行って死んじゃうんですね。だから、極端なこと言ったら、やっぱり子ども時代にきっちり川遊びをして、川遊びってこんな風にしないと死んでしまうでみたいなことを勉強してもらわないと。

そんなんですかね、私そのあたりたくさん取り組んでいるものですから。他もう1点ありますか。もう1部会。防災部会は友田さんいかがでしょう。

(友田委員)

防災部会です。私ですが寺池台三丁目なんですけど、昨年9月に自主防災会立ち上げましてね。で、14名でまずスタートして、なにで苦勞しているかって言うたら、防災訓練の時に自治会の方に参加いただくというところがね、やっぱりなかなか参加が少なくて、まずいかに広げていくかが課題だと思うんですけど。やはり、14人で始めましたけど、作業とかねプログラムとか、そういうのも我々で全部やってきて、あと私たちがホストをすれば、ゲストとして訓練の時だけでも参加いただくとかね、そういった方をいかに広げていくか、自治会まで広げるかっていうことがやっぱり1番課題です。

で、小学校区単位で、小学校で防災訓練したんですけど、その時は割と広い範囲で集まってもらったんですけど、寺池台三丁目の集まりとしては、参加人数が少ないみたいなのところがありまして、そういった時に地域もまた考えようとするならば、もう少し集まる仕掛けを作っていかなければならないという風にちょっと思っていて、せっかく今軽トラマルシェとかしているのであれば、例えば防災訓練を最初に軽トラマルシェがあるところで宣伝して、そして来てもらって公園部会とか近隣に参加いただくと。お子さんも連れて来れるような仕組みにするとかね、そういったところコラボレーションをしながら、そういう防災の取り組みっていうのを広げていただけるのであれば、そういったタイアップしていきたいなって思っています。そういう広がりをもっと作っていききたいなって思っています。

(増田会長)

そういうところで、マルシェは物販だけではなくて、紙芝居したりとか、お国自慢したりとか、あるいは読み聞かせ会。絵本の読み聞かせ会やってくれるグループやとか、そんなんとどんどんくっついてくることがあるんです。極端なことを言ったら軽トラマルシェの一つのテントでね、そういう防災講話会するとか、そんなんが上手く展開していくとお互いが面白いですよ。結構、絵本やってくれたり、紙芝居やってくれたりしているところはくっついてるっていうのが結構あるんですよ。

(友田委員)

防災だけではなくなかなか人が集まらないっていうね。そういったコラボがありがたいですよ。

(増田会長)

あとは、防災なんかでも難しい防災ではなくて、この頃若いお父さんがサバイバル出来ない。飯ごうで飯炊けないとか、火起こされへんとかね。そういうのは、子どもの前でお父さんええ格好出来るように、サバイバルの訓練しようとかね。そんなんやると面白いですね。あんまり難しいことばかり言って、耐震がどうやとかそんな話ではなくてですね。

はい、ありがとうございます。そういう風な中で、少し課題として挙がっている情報発信どうしましょうかという話。あ、はいはい、どうぞ。

(中井副会長)

公園の続きなんですけど、一点だけ言わせていただきます。一丁目の寺池公園、月に一回清掃して

います。その時にパラソルカフェやっただいて、いまそのパラソルカフェが発展的になって月一でモーニングをやろうということで、集会所を借りて月に一回やっています。その発展系として、ロペという喫茶店を借りながら、ランチを出す形で出来ないかということで、同じようなメンバーでやっています。清掃活動は一つの町会の動きなんですけれども、それに付随して居場所ができてくるという、発展途上なのかなと感じがします。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。

あと少し、大分時間来ていますけど、情報部会の話とリーダーの話、あるいは予算の話が課題であがっていますが、特に有料のカフェをされている方いらっしゃるでしょ。あの辺りは収支型でいくとうまく回ってるんですかね、300円のカフェがあったりとか、蕎麦打ち体験100円とか、パラソルカフェが一杯100円とか、これはどうですかね。

(コンサルタント：寺田)

そうですね、材料費等は出ていると思うんですけれども、人件費を無視したら回っているという感じですよ。

(増田会長)

基本的には、人件費とか交通費とかいうものはボランティアで、後は消耗品というか実費は回りますみたいな形が最低限必要で、ただ全体会議を維持していくということになると、全体で通信費どうするんですか、あるいは全体で広報するときの情報誌の印刷とか編集とかどうするんですかとか、それにもう少しいくと今度は、せめて持ち出しといっても交通費くらいは何らかの形で生み出せないかとか、段階を踏んでお金ということを考えていかんとあかんと思うんです。

せめて交通費くらいは皆で持てるようにというところまで目指すのは中々しんどくて、継続していくための持ち出しが極力少なくてすむような形で回るかどうか。

ここに書いてあるコア会議とか代表とかいうのは、コア会議というのは、こっだけ部会があれば部会の連絡会やから、部会の代表者が集まれば、コア会議は、あの絵を見るとコアだけで一つの別人格の会議が出来るような絵になってますけど、そうじゃないと思うんです、コア会議というのは。

コア会議というのは、おのおののプロジェクトのお世話係の人たちが集まって、色んな各種の先ほど言ったお互いのマッチングをすとか、そんなんがコア会議というのか、部会長会議みたいな形というか、会議というよりお互いに協力できる仕組みありませんか、みたいなのがコア会議の定義かなと。後はリーダーなのか、ひょっとしたら久先生の所なんかは、リーダーからファシリテーターへと書いていますけれども、ただ色んな助成金を取っていく時の体裁としての代表の名前なのか、その辺も考えとかなあかん。強ちにリーダーで全部の部会を引っ張っていくみたいな仕組みでは多分ないんやろと、ネットワーク型で。いつもプラットフォームというのは、基本的には情報交換であると同時に、自由な活動が発生していく拠点ですから。

後は情報発信は、極端なことをいうと、このごろけっこう絵を描いたり、キャラクターを描いているような主婦の人でネット上で設けている人っていますよね。アニメとかそんなん好きな人いて

るから、その辺どんなにうまくひっかかってくるかやと思うんですけど。

どうでしょうか、皆さん何かそのあたり少しプラスありますかね、何か。

(中井副会長)

当初、会議が出来た時から、リーダーというんですか部会長を作ってくれという話が、市の方からあったんですけども、中では自然発生的に出てくる方がいいんじゃないか、リーダーを決めたところで今の先生の話でないけれども、ひっばっていくというのは中々難しい。そういう意味では部会を何回かやっていく中で、中心的に発言する人とかまとめていこうとする人とかが増えてくるので、そういう人を部会のリーダーにして、その後で、コラボすればいいのではないかという話をしてたんですね。そういう形で今進めてもらっている。補助金とかそういうのでどうしても代表者がいるならば、代表者はだれでも頼んでんでもらうことも可能だと思うんで、誰でもなってくれると思いますが、何となくその人が実質的にリーダーとしてひっばっていくのは難しいので、各部会で実際に提案して引っ張っていける人というのも動かして行って、そのまとめとして誰か代表になるというのは、誰でもやっていただけるんじゃないかと思いますけど。

(増田会長)

だから、会議そのものは、緩やかな部会の連携会、情報交換会みたいにえていくのが一番うまいかもしれないですよ。防災教室とマルシェを一回一緒にやってみますか、みたいな機会があるとか。

(木全委員)

考えてみます。消防とも連携して、AEDの勉強会やったりとか。

(増田会長)

結構消防とうまく交渉したら、ヘリコプター飛んできて実演してくれたり、煙出してくれたりするので、面白いと思いますけどね。

公園と消防なんていうと、山林火災の消防呼んできたら面白くて、山道を通るようなキャタピラの資機材積んだやつが消防車の中から出てきて、それが狭い公園の道走ってくれて、中の斧とかチェーンソーとかそんなん入っているんですけども、結構面白いですから。

(コンサルタント：寺田)

今、お話聞いている感じだと、今は部会ごとの活動を形作るのので精いっぱい所があるんですけども、ここから部会をまたいでの活動が、先ほどお話があったようにイベント部会と防災部会ということがあったら、そこで話し合いの場が自然発生的に出てくるので、確かに目指しているコアメンバーが集まる場というのは、「これをやろう」となったら勝手に出てくるかもしれないなという感じです。

(増田会長)

図で、赤くマスク掛けているよりも、むしろ黒い点を全部結んだらいいと思うんですね。黒い点を全部結ぶと。で、1本と結ばれるときもあるし3本と結ばれるときもあるし、という感じで。

そんなイメージ図のほうがいいかもしれない、我々の目指しているところというのは。

(中井副会長)

今、一つの部会だけにかかわっている人は少なく、二つか三つみんな入ってはるから、ある意味中でネットワークあるはずなんです。

(佐々木委員)

実際に各部会の情報共有の場となってくると、マルシェであったり、持ち寄り晩ごはん会であったりとか、自然に居場所として出来てきたものが、そのまま色んな方が参加して、広がっているという風に考えると、すごく上手に広がりつつあるのかなというイメージがあります。

(増田会長)

そんなんでよろしいでしょうか。

あとは、事務局経費が市から出てますけれども、市から事務局経費が出てこなくなった時に、どんな事務体制をやっていって、どんな金の生み出し方をするかというのは、ちょっと睨んでおかなあかんと思うんですね。

今私なんかやっているところは、NPOの取得という、結構NPOは割と敷居が高くて、むしろ今一番作りやすい法人は一般社団。一般社団は定款作って登録するだけで出来るんです。法人としての資格を持てると。そんなのはツールとしては、かなり緩やかに敷居を定めてきていますので、NPO法人ってやっぱり敷居が高くて、それより一般社団の方が圧倒的に敷居低いです。

もしも、何らかの意味で法人格を持って助成金を申請にいかうかと思ったら、そんなんの方が楽です。

(溝口委員)

事務局の経費がでなくなるってどういうこと。

(事務局：坂口)

今、市がきんきうえぶさんに委託して運営していただいている、そのお金が出なくなると。

(溝口委員)

元々は、市のまちづくり推進課の発想というかそこから出発している訳ですから、それできんきうえぶさんに委託費出して、それから今後の委託契約が解除という意味で。

(事務局：坂口)

解除というか、活動が何年か続く内に、委託が無くても住民さん主体で、いわゆるまちづくり会議の場とか部会の場が、運営できるようになるというのが、理想的な形かなという風に考えていま

す。

(増田会長)

行政の支援というのは、どちらかと言うとスタートアップ資金という考え方なんです。初期のスタートでエネルギーいりますから、そこさえ支援して動き出したら、自立系みたいな所を目指すというのは、今色んなところで言われているのは、みんなそうなんですけど、その辺へどうオンしていけるか。すぐにと言う意味ではなしに。よろしいでしょうか。

そしたら、後ですね最後、中・長期的な取り組みで公園の利活用というのが残っておりますので、ちょっとこれ報告いただけますか。

(3) 中・長期的な取り組みについて (公園の利活用促進など)

(事務局：坂口)

・資料5説明。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。

何かご質問とかありませんか。

(吉村委員)

これは、富田林市がやるんですか。

(事務局：坂口)

はい、市がやります。

(増田会長)

今、大阪府では、19ある府営公園すべてこのサウンディング調査をしようと、何らかの意味で民間企業が参画をしながら、公共サービスの質を上げていったりとか、少し施設整備をしたりということなんです。

(吉村委員)

よく分からないのですが、言葉だけは良く聞くのですが、良い点とか弱点とかもあるじゃないですか、そのようなことも含めて、言葉だけ言われても、行政的なことは分からない。その点どうなのかなど。

(増田会長)

まだ、いい点とか悪い点というよりも、むしろ民間企業と、ここなんか今ミズノ系統が指定管理を受けて運営していますよね、それよりも更にもうちょっと踏み込んで、建物建て替えてでもやるよ

うな企業がありますかとか。

(吉村委員)

調査をしていく。

(増田会長)

調査というよりも、企業にヒアリングをしてみると、可能性を探るという意味ですから、良いとか悪いとか言うよりも可能性を探るというレベルやと。

(吉村委員)

友田さん割といろいろ言っておられた。

(友田委員)

大阪府で、割とこういう制度持ってきて、こういった公民館とかの建て替えにあたって、行政だけでは中々難しい状況になっていて、一方、民間も公益性というのを割と出しながら色々な取組をされていて、それともう一つが公園にも色々な規制緩和も出来てきて、民間がこういったものを合築しながら建て替えて、公益的なサービスを一緒に作り上げていきますという。

しかしながら、行政としてどの民間とタイアップするんですかとか、そういうのが中々決まらないので、サウンディング調査を公平性を持ってやって、提案を受けた民間と連携しながら、対話をしながら、そして我々の地域の方々の声も生かしながら、どういうものを作っていくかというのを、時間を掛けてきっちりと対話して、そういうことに投資できるような条件整備を行政と民間と色々話をしながら作り上げていくということをしていって、それを具体化していく。

そのワンステップ、入口としてこういうサウンディング調査が使われている。今回そういうことをやっていただけるといふ。

(吉村委員)

これ、3つ施設あるでしょ。僕ら公園部会のほうでも、グリーンの道、つなげるのがあったから、個々ばらばらじゃなくて、全体的にということで考えたらいいんですかね。

(増田会長)

サウンディングの仕方、どんな仕方をするか。

(事務局：坂口)

小さな街区の公園は外しているんですけども、それぞれ金剛中央公園だけでもありですし、機能分担で寺池公園はこうで、中央公園はこう作ってそこをどうネットワーク化していくかといった意見ももしかしたら出していただけるかと。

(吉村委員)

それは、結ぶということで緑のルートを言っていて、そういうことも含めて聞くのか。

(事務局：坂口)

そんな考え方も踏まえて、個別の提案を組み合わせたら結果そうなったということになるかもしれないですし。

(吉村委員)

僕は、全体的に考えるということは大事と思っていて、そういうことでいけるのかなと思っていて。

(増田会長)

その辺を探るということです。

(吉村委員)

それも探る。

(友田委員)

ただ、一回民間から提案を受けて、もうワンクッション行政の判断で、それまでに多分、行政のほうは我々と一緒に、どういうプランが、民間提案を受けながら、こういうネットワークまで考えてやってもらった方がいいですねということで、今度は最終公募を民間に対してしていくんです。

そこまでのプラン作りみたいなことを、一回民間の意見を聞きながら、対話をしながら作っていくというワンクッション。そこに我々の意見があるのであれば盛り込むように、こういう場を活用しながら、意見を言っていけばいいかと。

(中井副会長)

公園部会で緑のネットワークを作ろうと、今、寺池公園と中央公園をメインにしていますけど、各団地の中にいっぱい緑があって、それを結んで歩けるコース、5キロコース、3キロコースというものをモデル的につくって、そうすることによって各公園が有効的に使われて活性化が出来るだろうということで、我々の部会の中では検討しようとしているんですけども。

今回のやられるのは、あくまで民間活用をメインにされてますから、今回のサウンディングの中では、一番金目が出てくるところ、民間が組んで何か事業を展開して、向こうも儲からんと出てこないわけですから、そういう可能性のあるところとして3つ選ばれているという風に思うんですね。それに、今のネットワークを合わせてやれば、それはそれで新しい展開が出てくるかなと思うんです。

(増田会長)

あるいは、先ほど友田さんがおっしゃったとおり、経営的収支の話だけに終始しないでほしいというのは我々の要望で、民間の活力を利用して、公益性をどうやって高めてもらえるんやと、市民

の方々がどれだけ使い勝手が良くなるとか、どれだけ満足度が上がるんかということも忘れずに、一体的に展開してほしいというのが、多分この協議会からのお願いだと思うんです。

それを経営収支上だけ考えて、こんな事業やったら儲かりませとか、こんな事業やるんやったら民間事業者出てきませと、ふたを開けみたら、儲け主義に走られてしまいますと困りますので、その辺のことやと思います。やはり公益性をどれだけ発揮しながらというのが、最低限の条件というのかな。

(吉村委員)

URの公園もあるじゃないですか。ああいうのも含めてということになるのですか。

(増田会長)

それも、通常はなかなか、こんだけのニュータウン全体の公園緑地を一体的に管理するというのは、事例はあまり無いです。

(吉村委員)

無いですか、エリアの大体決まった部分でというのは。

(増田会長)

URでしたら、昔は団地サービスみたいなのか、今はまた別でやっているとか、けれども市の公園まで管理しているとか、市の街路樹まで管理しているということはないですね。

その辺は、本当の意味で一体的に管理しているというのは非常に小さなエリアではあるんです。

私が開発をお手伝いした、近鉄のあやめ池の公園の跡地の住宅開発、そこは市の緑道、市の公園、街路樹、戸建て住宅の中の庭、それも一体的に管理するような業者がいてる。かなり狭い住宅開発ですから、こんな大きなニュータウンで全部一体的には、本当はそういうところが出てきてくれると嬉しいですけど。

(吉村委員)

そういうのも含めて色々と考えていくという。

(増田会長)

はい、そんなんでよろしいですかね。くれぐれも住民不在型の民間導入ということがないようにだけお願いできたら。

4. その他

(増田会長)

はい、ありがとうございます。ちょっと時間オーバーしましたけど、最後、軽く資料付けてもらってますんで、ちょこちょことご報告いただけますかね。

(事務局：坂口)

はい、その他で今後の予定なんですけれども、まずこの協議会の予定としましては、今年度もう一回、3月頃に開催させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

あと、案内チラシの方を4枚入れさせていただいております。軽トラマルシェのほうは、10月以降、毎月第4土曜日に開催させていただくことが決定しまして、1時～4時で銀座街でイベントとして行われているんですが、野菜販売は、3時頃にトラックでやって来られてそこから野菜販売がスタートします。ぜひ皆さん、お手伝いも必要ですし、賑わしに来ていただくことも重要ですのでよろしくお願いいたします。

それと、持ち寄り晩ごはん、とこれは廣崎さんをお願いしましょうか。

(廣崎委員)

はい、持ち寄り晩ごはん会の時間が、今まで6時からやっていましたが、5時から、軽トラマルシェの終了時間が早くなりましたので、それに合わせて、持ち寄り晩ごはん会の開始時間が早くなります。

(増田会長)

日没の関係ですか。

(廣崎委員)

日没もあります。終了は8時となっておりますが、ゆるゆると終了していく感じです。

次の資料も紹介させていただきます。日本子育て応援団の「地域まるごとケア・プロジェクト地域人材交流研修会 in とんだばやし」ということで、今高齢者とか福祉、障がい者、子育て、そういったものがそれぞれ縦割りになっているものを、横でつなごうということを経験の一緒に皆さんと一緒に考えようというプロジェクトになっています。これ、今絶賛募集中ですので、裏面ファクス流していただいてもいいですし、インターネットから申し込みも可能です。ふらっとの電話で申し込みも受け付けしていますので、皆さんご参加ください。

(増田会長)

メンバー、ここのメンバーばかりですね。坂口さんと、溝口さんと、木全さんと、佐々木さんと、廣崎さんと、こっだけメンバーそろっていたら珍しいですね。全員集合で。

はい、ありがとうございます。

(事務局：坂口)

はい、最後の資料が、まちづくり会議の10月、11月のイベントスケジュールで、会議の方で報告のあったイベント等の詳細な日程が載っていますので、皆さん是非、ご参加、お手伝い、よろしくお願いいたします。

11月はバルもあって、それにも参加したいと思っておりますし、その関係で、11月3日に

まちづくり会議全体会がありますので、今日いただいたアドバイス等を参考にさせていただきながら、会議の方進めさせていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

日程等報告は以上です。

(溝口委員)

会議の次第とは違うんですが、報告しておいた方がいいかなと。13日からまた金剛団地に放鷹します、鷹を。一昨年やったときに、団地のカラスが周辺に行って色んな苦情がでて、また今年やりますが、13日からはじまりますので、これ繰り返し繰り返しやっておかないとなかなかカラスも。

(増田会長)

移動してくれない

(溝口委員)

そうそう、ですかそういうことが13日から始まりますので。

(増田会長)

なるほど。分かりました。やっぱり効果あるんですか。かなり移動してるとか。

(吉村委員)

地域から減りますか。高辺の。

(溝口委員)

高三はもうほとんどいない。

(友田委員)

13日から何日間ですか。

(溝口委員)

来年の、今のところ3か月単位でやっています。

(増田会長)

それは、鷹匠に来てもらってやっているんですか。

(溝口委員)

鷹匠が7日運動会にいらっしゃいますんで。もし、天気で、皆さん暇でしたら来ていただいたら。

(増田会長)

分かりました、ありがとうございます。

他に何かございますか。よろしいですか。ありがとうございました。

そしたら、事務局にお返ししたいと思います。

(皆見委員)

・閉会あいさつ

以上